

4班

担当子ども記者

平野蒼空／佐藤大晟
後藤紗耶

海女とは何者なのか？ 歴史や仕事を総ざらい



○海女は2000年以上続く伝統的な職業です。志摩・鳥羽市には日本の約2000人の海女さんのうち、8分の3にあたる750人の海女さんがいます。しかし今回取材した相差では昔、4〜500人いた海女さんが100人ぐらいまで減ってしまうなど人数が減少しています。

採取のシーズンになると海女さんは海に潜ってアワビやサザエなどを取ります。海に潜るとき、海女さんが着ている「磯着」は色は白で、海の中だと膨張して他の生き物には自分より大きく見えます。

海女さんと真珠には強い関係があります。そしてアワビやほかの貝のお世話もしています。現在の真珠養殖には機械を使っていますが、人は機械と違って海や環境などを考えることができません。海女さんや漁師さん、そして僕たち含め、すべての人々で海を守っていかねばならないと思います。



編集後記

こども記者の取材は、『海女と学ぶ、三重の海』というテーマで行われました。海女というテーマを意識しつつ、さまざまな海についての事柄を取材する、少し難しい取材です。しかし、こども記者のみんなは、非常に熱心に頑張ってくれました。やはり、これだけの人数の、こども記者

がいたら、同じ体験をしても、受け取る知識も、人それぞれです。真珠に興味のあった記者、海女の話に興味があった記者、無人島探索が楽しかった記者など、好みがさまざまに分かれていたように見えました。取材体験を通じて、今後も、海女や海に関心を持ってもらえればと思います。